

# 獅子城跡（ししがじょうあと）（1/2）

～巖木町 難攻不落の山城跡～

獅子城跡は唐津市巖木町岩屋と浪瀬の間にそびえ立つ白山（しろやま）（標高228㍎）に築かれた中世から近世初頭にかけて機能した山城である。唐津市の中近世を代表する遺跡であり、平成3年3月30日、佐賀県史跡に指定された。

## ■獅子城の歴史

獅子城は、松浦党の祖である源久（みなもとひさし）の孫にあたる源披（みなもとひらく）によって治承～文治年間（1177～1190）に築城されたと伝えられている。

その後、披の子持（たもつ）の代になり、平戸に移り、館山に城を築き平戸松浦家の基礎をつくった。そのため、獅子城は廃城となったと伝えられている。現在の獅子城には、その頃の状況を伝える遺構や遺物は確認されていない。

獅子城廃城以降、南北朝末には、松浦党は「松浦四十八党」と称されるようにその勢力を拡大し、一族二門の結束を強くしていった。しかし、上松浦では徐々に岸岳城の波多氏の勢力が強まり、室町時代には波多氏が当地松浦党の主導的地位を占めるようになった。

室町時代になると、群雄が割拠して戦乱の時代を迎える。肥前では佐賀の龍造寺・鍋島、神埼の少弐・神代、小城の千葉、武雄の後藤、上松浦の波多・草野・鶴田・日高等の有力な諸氏に加え、肥前一帯を虎視眈々と狙う豊後の大友や周防の大内氏も入り乱れる状況であった。特に佐賀の龍造寺の脅威は増し、波多氏をはじめとする上松浦党の一統は、当時日在城（ひありじょう）にいた鶴田越前守前（すすむ）に獅子城を再興させ、佐賀地方に対して防備の最前線の拠点とした。

獅子城再興の時期を明確に示す資料はないが、当時の文書史料を通じてみると、天文年間中頃（1540年代）には再興され中世獅子城の基礎は固まっていたようである。

天正元年（1573）から翌天正2年にかけて獅子城は佐賀の龍造寺隆信から攻撃を受けるも前（すすむ）は城を固く護るが、宗家日在城主鶴田幡守勝が和を請い、龍造寺隆信はこれを受け入れて軍を解いている。また同4年（1576）にも獅子城をめぐる攻防があり、この年の6月28日に鶴田越前守前は亡くなっている。

越前守前亡きあと、その跡目を継いだ長子である鶴田上総介源賢（まさる）は、各地に鳥居等の石造物を奉納する等、周辺での活動が窺える資料が残されている。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 巖木

◎地図・写真・統計資料など



獅子城天守閣跡



獅子城石垣

（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『巖木市史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

|   | 分野   |
|---|--|
|   | 歴史   |
|   | 地域   |
|   | 巖木   |
| ◎地図・写真・統計資料など   |  |
| <p style="text-align: center;"><b>獅子城跡（ししがじょうあと）（2/2）</b><br/>～巖木町 難攻不落の山城跡～</p> <p>～1/2からつづく～</p> <p>天正十九年（1591）10月から翌20年2月にかけて、豊臣秀吉は全国の武将に命じて名護屋（唐津市鎮西町名護屋）の地に肥前名護屋城を築城させ、さらに全国の武将をこの地に集結させた。「文禄の役」の始まりである。松浦党の盟主波多三河守親（ちかし）も渡海し、他の武将同様、この戦乱に加わっている。文禄二年（1593）には日鮮間に和が結ばれ、波多三河守親は帰国の途についた。しかし、帰路海上で待っていた黒田甲斐守長政より秀吉からの改易の命が伝えられる。これにより波多三河守親は領地を没収され、常陸（ひたち）国筑波山麓に配流されることになった。この改易を受け、寺沢志摩守広高がその地を領することとなった。波多氏という盟主を失った上松浦の松浦党諸氏は拠り所を失い、寺沢氏に仕官するものもいたがこれは異例のことで、崩壊の道をたどり、各地に割拠していた諸氏も衰亡して、やがて歴史の表面から姿を消していった。このような状況の中、鶴田上総介賢も浪々の身となるが、ほどなく多久家の招きを受け多久家に仕えることとなり、獅子城に廃城となった。</p> |  |
| ◎引用・参考文献（出典）  |  |
|   | <p>◆『巖木市史』</p>   |
| ◎エピソード・伝承・うんちく など   | ◎もっと詳しく知りたい方は  |
| <p>■獅子城の大改造</p> <p>波多氏改易後、上松浦一帯を所領とした寺沢氏は獅子城を石垣造りの城に造り変えた。慶長3年（1598）豊臣秀吉の死後、関ヶ原の戦（1600）を経て江戸幕府が開かれた（1603）頃である。しかし、大阪夏の陣（1615）に豊臣家が滅亡するまでは、徳川家との2大勢力が存在する緊張状態となり、全国の大名家たちが次の戦いに備え、競って築城・改造をおこなった時期である。このような情勢の中で唐津藩主寺沢志摩守広高は軍備を強化しており、獅子城が藩領境の重要な防衛拠点の城として、あるいは唐津藩の圧倒的な軍事力と技術力を内外に誇示するための唐津城の支城として大規模に改造したことが平成11年から同20年までの調査で判明した。</p>  | <p>唐津市近代図書館へ<br/>お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ：<br/><a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p> |